

# 研究雑話(117)

障害児教育・動作学誌上実習(35)  
藤井力夫

## 姿勢反射の発達とリズム運動の習熟 (15)

### 《片足立ち検査》にみる緊張性腰反射の利用と増強

前回は、階段登り・降りと飛び降り動作の意義について、とくに3歳児における片脚支持の増強という立場からお話しました。用いた階段(蹴上げ10cm、踏み面28cm、3段)は、

2、3歳児の挑戦に最適でした。そろえ登りから、交互支持、交互歩行と片脚支持が強まるほどに、両足跳び降りも上手になるのです。3歳児はこの両面で力を蓄え、次への飛躍を実現している

設定、解析方法等は、次回説明。

**緊張性腰反射**：緊張性頸反射とは別に、腰部の後傾、前傾、捻転、側傾に伴って誘発される姿勢反射。図C参照。左右相反的な共同運動習熟の軸を形成するものと考えられる。

**階段1**：躯幹前傾による遊離脚後方伸展(b)、ないし両腕での膝持ち上げによる片足立ち(a)。緊張性腰反射は弱い。図A参照、以下同様。

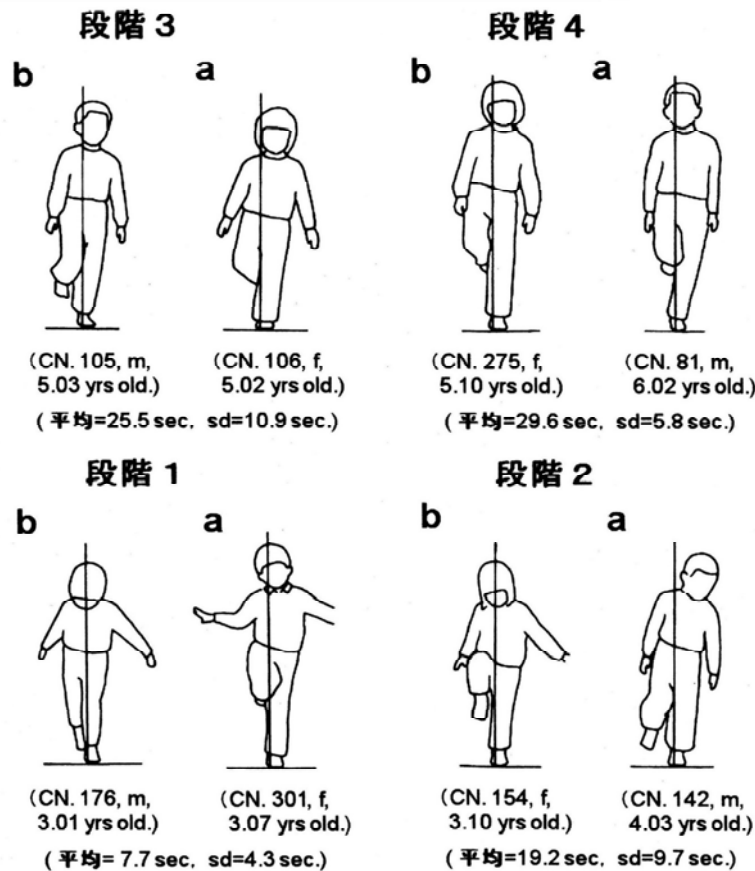
3歳4、5ヶ月児(50%ile、以下同様)で6秒から9秒程度片脚支持。スキップ動作は無理でギャロップになってしまう(図B、以下同様)。

**階段2**：躯幹前屈による遊離脚膝持ち上げ(b)、ないし躯幹側傾・横向き(a)による片足立ち。緊張性腰反射に従った片脚支持。3歳10ヶ月から4歳3ヶ月ごろで、15秒から21秒程度立っていることができる(±9秒)。この段階で、両肩持ち上げによるスキップ動作が開始。

**階段3**：躯幹側傾・腰部捻転(b)ないし躯幹側傾・前方立ち直り(a)による片足立ち。緊張性腰反射を利用して片足立ちできる。5歳3ヶ月ごろで、25秒程度持続(±10秒)。スキップ動作は前腕持ち上げ、ないし遊離脚・足関節底屈により誘発。

**階段4**：捻転傾斜・頸性立ち直り(b)、ないし腰部捻転・視覚性立ち直り(a)による片足立ち。緊張性腰反射は十分増強されており、安定した片足立ち。6歳0ヶ月から2ヶ月。全員が29秒程度安定して立つことができる(±5秒)。スキップ動作は、遊離脚・足指底屈による誘発。ポルカ可。(北海道教育大学教授)

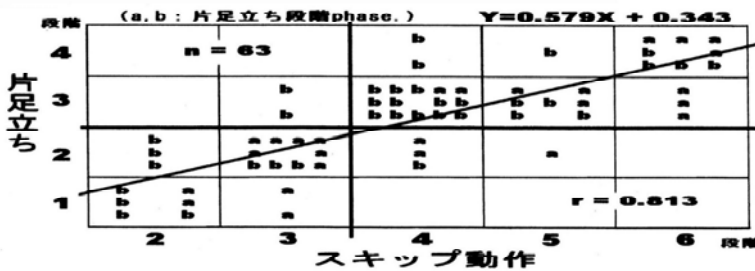
#### A. 《片足立ちテスト》の発達段階。(藤井:1983)



るのでしょう。スキップ動作への変換がその一例です。足腰における「緊張性腰反射」として増強された、そう理解できます。これから数回、緊張性腰反射の利用と増強をめぐってお話したいと思います。

今回は、片足立ちテスト時における緊張性腰反射の利用の実際についてです。  
**片足立ちテスト**：3歳0ヶ月から6歳8ヶ月までの幼児、77名に実施。彼らにとって閉眼では無理なので、開眼で実施。条件の統一、ならびに視覚性立ち直りをみるため、被験児の眼高・被験児の眼高・

#### B. 《スキップ動作》との発達連関。



#### C. 緊張性腰反射 (TOKIZANE, T.:1951)。

